

レゾナックの長期ビジョン

03 How to change

そのために何に注力していくのか

化学の力で社会を変えるために、
今、具体的に何をどう実践していこうとしているのか。
私たちのパーパス実現のための手段をご理解いただけるよう、
サステナビリティ戦略と事業戦略の側面でお伝えしています。

2020

旧日立化成が
昭和電工グループの一員に



2021

統合新会社の長期ビジョン
(2021~2030)スタート

45 — レゾナックの長期ビジョン

49 — 財務・資本戦略

55 — サステナビリティの推進

57 — マテリアリティと
非財務KPI

59 — 特集 Resonac Pride
製品・サービス

62 — CTOと
若手研究者座談会

65 — R&D・知的財産戦略

69 — マーケティング戦略

71 — デジタル戦略

73 — 半導体材料
グローバルトップ座談会

77 — 半導体・電子材料セグメント

81 — モビリティセグメント

83 — イノベーション材料セグメント

85 — ケミカルセグメント



未来に向けたプロジェクトを少しご紹介



2023

レゾナックとして
完全統合

RESONAC

Chemistry for Change

2025

最先端半導体の
高成長を担う材料メーカーとして、
リーディングポジションを確立し、
継続的な強い成長力を獲得

2025年財務指標

対売上EBITDA …………… 20%
ROIC …………… 中長期的に 10%
ネットD/Eレシオ …… 1.0倍を目指す

2030

長期ビジョンのゴール

目指す姿

「日本発の世界トップクラスの 機能性化学メーカー」の実現

- TSR (%) 中長期的に
化学業界で上位25%水準
- サステナビリティビジョンの実現

計算情報科学研究センター
奥野好成センター長

Now!!



半導体材料メーカーで国内初、仮想現実 (VR) を製品開発に活用
VR活用による分子設計は、必要とする特性を実現するための研究開発につながります。より深い材料解析や新たな材料・素材の発見のための、当社が持つ高度な計算科学技術を活かした取り組みです。まずは、このVRの導入・活用を全社に展開し、将来的には、社内のインフラにまで高めていきたいと考えています。計算科学・シミュレーションをフル活用し、当社の研究開発を加速していきます。

計算情報科学研究センター
MI基盤開発グループ
清水陽平さん

Future?



ベンチャー企業 (株) ispaceとの共創で、宇宙事業を推進
宇宙開発の分野において、先端材料パートナーとして時代が求める機能を創出し、グローバル社会の持続可能な発展に貢献したいという想いから、社内有志が集まり、宇宙事業創設プロジェクトを進めています。部門横断はもちろんのこと、(株) ispaceを始めとした社外とのオープンイノベーションにより、将来の事業化を見据え、まずは企業価値向上につながるブランディングに取り組んでいるところです。

長期ビジョンの概略

昭和電工は2021年をゴールとした中期経営計画中に、日立化成を買収。成長への舵を切り、2030年に世界トップクラスの機能性化学メーカーを目指すことを宣言しました。2022年1月に昭和電工と日立化成は経営陣を一本化することで実質統合を果たし、パーパスを制定。

2月には、2020年12月に発表した長期ビジョンを見直し、共創型化学会社として価値創造の歩みを始めました。2023年1月レゾナック誕生。

レゾナックの長期ビジョン 2030年に目指す姿

世界トップクラスの機能性化学メーカーとなるためには、財務/非財務両面でステークホルダーの要求にこたえと共に、当社らしさを発揮していかなければなりません。レゾナックは、サステナビリティを全社戦略の根幹と位置づけ、目指す姿とサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）に紐づく施策と非財務目標を定め、取り組みを進めて長期ビジョンの達成を目指します。

長期ビジョン 目指す姿

世界で戦える会社



ワールドクラスの
事業競争力と収益力

持続可能なグローバル社会に
貢献する会社



イノベーション力と
事業開発力

国内の製造業を代表する
共創型人材創出企業



共通の価値観を持つ
競争力のある人材の育成力

サステナビリティ 重要課題 (マテリアリティ)

イノベーションと
事業を通じた
共創力&競争力の向上と
社会価値の創造

責任ある
事業運営による
信頼の醸成

自律的で創造的な
人材の活躍と
文化の醸成

財務指標と実績

	2022 実績	2025 目標
売上	1.4兆円	1兆円超
EBITDAマージン	12.2%	20%
ROIC	3.3%	中長期的に 10%
ネットD/レシオ	1.07倍	1.0倍を目指す

非財務目標と 実績(例)

	2022 実績	2025 目標
	実践度30%	
パーパス・バリュー実践度の サーベイスコア	共感度60% 理解度80%	パーパス・バリュー の浸透と 共創文化の醸成
	認知度ほぼ100%	
温室効果ガス排出量	4,270千t	2013年比 30%削減
重大労働災害発生件数	0件	発生ゼロ

長期ビジョンの概略

長期ビジョン達成のための主要戦略

方向性や進捗



グローバル水準の 収益基盤の確立

- Letter from the CFO [P25](#)
- 世界で戦える会社としての規模と収益性 [P49](#)
- ROIC経営の浸透 [P51](#)
- 半導体・電子材料 グローバルトップ座談会 [P73](#)
- 事業戦略 [P77](#)



ポートフォリオ 経営の高度化

- 財務・資本戦略 [P49](#)
- メリハリある経営資源配分 [P52](#)
- ポートフォリオ改革の方向性と進捗 [P52](#)



イノベーション (技術×ビジネスモデル)

- 特集 共創型化学会社とは [P13](#)
- 特集 Resonac Pride製品・サービス [P59](#)
- CTOと若手研究者座談会 [P62](#)
- R&D、知的財産戦略 [P65](#)
- マーケティング戦略 [P69](#)



経営基盤の強化 (プラットフォーム)

- 人的資本経営ダイアログ [P37](#)
- “チーム高橋”人材育成への思い [P41](#)
- レゾナックの人的資本経営 [P89](#)
- デジタル戦略 [P71](#)
- 座談会 私たちの取締役会改革 [P113](#)

TOPICS

長期ビジョン達成に向け、 機会とリスクの分析を実施

2023年6月に、レゾナックの3つのマテリアリティに紐づく機会とリスクを分析するワークショップを開催しました。CFO、CSO、CHRO、CTOなどが参加し、財務面から人材、研究開発など非財務まで議論しました。特に当社は、企業統合による内部環境の変化を注視する必要があります。統合の過程における社内の変化を外部環境の変化に加えてより注視し、経営としてモニタリング・評価し、目標設定にも結び付けていきます。

2023年6月に実施したワークショップで出た意見

機会

- 2社統合を契機とした企業変革
- 異なる技術領域から生まれる新しいシナジー
- 業務プロセス統合による効率化と創造性の発揮
- 化学が産業の起点であることによる、新しい価値の創出

リスク

- 2社統合の変化による人材のエンゲージメント低下 / 人材のリテンションリスク / 継承すべき文化、失敗から学んだ経験・ノウハウの消失
- 業界再編・ポートフォリオ改革の遅れによる共創力と競争力の低下
- 潜在的リスクの把握不足やリスクテイク不足による経営基盤の弱体化



▶ 動画

マテリアリティに紐づく機会とリスクワークショップ